

令和元年度（2019 年度）

学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会による評価結果を記したものである。

令和 2 年 7 月 31 日

学校長 片山 薫
副校长 豊島 宇茂（評価実施責任者）

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1) 学校関係者評価の目的、方針
- 2) 学校関係者評価委員
- 3) 学校関係者評価委員会の開催
- 4) 学校関係者評価の実施方法

2. 学校関係者評価の項目、内容

- 項目 I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目 II 学校運営
- 項目 III 教育活動
- 項目 IV 学修成果
- 項目 V 学生支援
- 項目 VI 教育環境
- 項目 VII 学生の受け入れ、
- 項目 VIII 財務
- 項目 IX 法令等の遵守
- 項目 X 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員（令和元年度）

委員氏名	所 属	選出区分
新井 光男	KARADAコンディショニングスタジオ i-potential	学識経験者
市角 雄幸	習志野市市議会議員	地域委員
櫻井 佳成	千葉県立八千代東高等学校	高校委員
小林 誠	医療法人静和会 浅井病院	卒業生委員
斎藤 剛史	成田富里徳洲会病院	企業委員
田中 朋美	千葉みなどリハビリテーション病院	企業委員

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会　日 時：令和元年9月26日(火)13:30 ~ 15:30

場 所：八千代リハビリテーション学院 会議室

第2回委員会　日 時：令和2年3月9日(月)18:30 ~ 20:30

場 所：八千代リハビリテーション学院 204教室

4) 学校関係者評価の実施方法

令和元年度の学校自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の項目、内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施し、評価が適正であるかを確認して審議、意見集約を行う。

【評定基準】

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
- A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である。 (若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目 I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンレット・Webサイト等で広く公表し、学生、受験生、関係者、教職員において共有できている。学則、カリキュラム、シラバスも公開している。

課題

継続して、教育理念・目標等を反映した教育課程の構築、改訂カリキュラムの運用を図る。

今後の方向性、方策など

養成施設指定規則改訂に応じたカリキュラム運営を教育理念・目標の観点から確認する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

業界の求人や求める人材像に関して、在宅復帰を目指す回復期リハビリテーション病院が求人施設数、人数ともに多い傾向にある。その中で、現況の従事者数と養成数ともに少ない作業療法士の求人が多くみられている。

小項目 I-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目 I-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: ホームページ、刊行物等で、広く公表、周知している。

小項目 I-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 臨床実習、就職活動、教育課程編成委員会等から把握した業界のニーズに対応する教育目標や人材育成像を教育課程に反映させている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

運営方針に沿って、適正、円滑に学校運営を行っている。

課題

継続してICT教育を推進し、学校運営に関わる情報化システムの構築を図る。

今後の方向性、方策など

情報システムの修正、構築など、学内の管理業務をより円滑にしていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学校の運営方針は適切に策定されているが、教職員への周知ならびに業務への反映に関してその徹底が望まれる。

各部署での業務推進、部署間の連携により、円滑な学校運営を期待する。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 運営方針を策定して、部門会議、学内委員会・情報伝達システムなどで教職員に周知し、方針に沿った業務推進であることを、隨時、確認している。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は、学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い記録し、伝達・周知を確認している。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学事サーバーによる成績や情報管理を行い、メール等での学生への速やかな情報発信、出席確認などを行っている。業務管理システムは改良を検討している。

項目Ⅲ 教育活動

総括

卒業で得られる国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。

更なる教育活動の向上を目指して取り組みを進める。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂に対応した教育課程の実践を確認する。

授業評価の実施と結果の活用、教員個々の指導力育成が課題。

今後の方向性、方策など

改訂カリキュラムに沿った2020年度シラバスの運用、授業運営を進める。

ICT教育、アクティブラーニング推進に関する研修会など、教育力向上の取組みを継続する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

授業評価が学生からも、教員間でも行われているが、その分析、効果的活用による、教員の教授力向上につながる取り組みや方策の充実を期待する。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 改訂カリキュラムに沿って学内にて検討し、教育課程の編成・実施方針を学校運営会議での確認の上で策定している。

小項目Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: グループ病院の講師による実践的授業を実施。臨床実習は学校法人とグループ病院で共同開発した臨床実習システムにより行い、成果につながっている。

小項目Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学生からの授業評価、教員間の授業評価ともに行っているが、その分析、活用が課題となっている。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 国家試験を考慮し、初年次より重点科目を位置付け、卒業年次の学修指導、成
果判定、対策学習指導を計画的、体系的に行い、成果につながっている。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 教育力・指導力を、学科責任者が評価して、専門技能の教授力と併せて資質向
上を図る。教育力向上をはじめ、研修受講や研究を継続して推奨、蓄積していく。

項目IV 学修成果**総括**

卒業、国家試験、就職、資質向上を目指す教育活動ならびに修学支援を行い、良好な結果として理学療法学科(昼間)に次いで、作業療法学科も進級、卒業率が向上している。

課題

専門職へのモチベーションの維持・向上、能動的学习や生涯教育につながる学修方策、退学
率の低減への取り組みなど、継続および更なる充実を図る。

今後の方向性、方策など

就学・学修支援、初年次教育、キャリア教育など多面的に学修成果につながる方策を検討する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

国家試験の合格実績が優良であり、継続を期待する。

退学者防止に向けた修学サポート、学生支援が進められ、体制が整備されていると認められる。

さらなる中途退学者数の低減を期待する。

学生の社会的活動として、学院祭での地域住民を対象にしたイベントも検討していく。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 多くの求人情報の掲示、就職説明会の開催やセミナーなどの就職活動支援を行
い、開校以来 100%の就職率が続いている。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 国家試験を考慮した授業内容や学習方策、模擬試験の実施、国家試験対策学習
を行い、今年度も全国平均を上回る合格率を継続している。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: モチベーションを高める初年次教育、担任制による修学サポートや面談、学生相
談室の活用をすすめている。成績不振を防ぐ学修支援の体制を整備している。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 障害者イベント等の情報提供、教職員の参画・引率、学生のボランティア参加等
を行い、それらの学生の社会的活動は把握している。

項目V 学生支援

総括

クラス担任制により学生とのコミュニケーションを図り、学生への支援および保護者との連携を密に行っている。高等学校等との連携も継続して行っている。

課題

モチベーションの低下、ストレスや不安を抱える学生への早い段階からの相談や支援、効果的な介入を行う体制を整備していく。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する報告、連絡、相談を速やかに行い、学生への関りが求められる教職員、部門での統一した、早期からの適切な対応を図る。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

夜間コース、比較的年齢が高い学生の就職支援が必要と思われ、学校のサポートを期待する。
担任面談、学生相談室の活用、専門機関との連携などにより、メンタル面で不安を抱える学生への支援、対応を期待する。
保護者との連携、高等学校との連携が十分に図られていることが評価できる。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 高校での進路授業やガイダンスへの協力、定期的な進路室訪問等により連携を図り、学校関係者評価での意見を反映した取り組みを行っている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 教育課程に関わる支援のほか、学生寮や通学定期などの生活面、奨学金相談窓口を整備し、特待生などの経済面でも支援制度も設けている。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 就職支援委員会と担任を中心に体制を構築し、就職率 100%を継続している。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 担任の定期面談から、状況に応じて学科責任者との面談を実施する。

カウンセリング、臨床心理師による相談室を月 2 回開設している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 通知や説明会、面談等により適宜連携を図る。特に出席や単位取得、進級・卒業に係る事案は早期に連絡、保護者同席での面談を行っている。

項目VI 教育環境

総括

施設、設備・機器、学校保健・学校安全、臨床教育体制、防災体制などを整備して、学校評価等で毎年、確認している。

課題

防災・危機管理体制に関して、避難訓練の実施や計画の充実を図る。

今後の方向性、方策など

学校保健計画・安全計画の運用をすすめ、防災・危機管理マニュアルの整備を図る。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

グループ法人病院と共同開発の診療参加型臨床実習システムが機能しており評価できる。

臨床実習は学生の学修成果、就職につながるものであり、継続および充実を期待する。

学校保健計画・安全計画が更新・整備され、その周知・運用が適切に行われている。

防災訓練の実施内容、防災・危機管理マニュアルの整備については、さまざまな災害発生を想定した整備が望まれる。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

自己評価: A 学校関係者評価: 適正

コメント: 設備、教材、図書等は基準以上であり、確認して年度毎に必要な整備を行う。

養成施設指定規則改訂に対応する設備機器を導入する。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

自己評価: S 学校関係者評価: 適正

コメント: 臨床実習病院と共同開発した実習システムにより、指導体制やリハビリテーション環境が充実したグループ病院にて均質な臨床教育を行っている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

自己評価: B 学校関係者評価: 適正

コメント: 防災設備点検・管理、防災訓練等を行い、学校保健計画・安全計画等の周知をすすめている。防災・危機管理についてはさらなる整備を図る。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

情報公開や広報活動の機会に適切な情報提供、学校案内に努め、入学定員を満たす学生の受け入れを継続している。

課題

適切な情報提供を継続していく。

今後の方向性、方策など

高等学校への入学者の修学状況の報告など、随時、的確な情報の伝達や周知の状況を把握して、より連携を深めていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

情報提供が的確、適切に行われている。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

自己評価: S 学校関係者評価: 適正

コメント: 進路授業、高校訪問、推薦入試等による連携を通して、情報提供を行っている。

学校関係者評価においても情報提供のあり方を確認している。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

自己評価: S 学校関係者評価: 適正

コメント: 資格取得、就職状況などの情報公開に加えて、国家試験対策の具体的な内容や過年度実績なども広く公表し、オープンキャンパスでも説明の機会を設けている。

項目Ⅷ 財務

総括

財務基盤は安定しており、適正な収支計画のもとでの事業推進、会計管理を行っている。
法人本部の確認のもと、適正な財務運営を行っている。

課題

安定した財務基盤の維持。

今後の方向性、方策など

適正な収支計画による学校運営の継続、安定した入学者募集への取組み。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学校法人本部、系列校 7 校で財務管理が適切に行われている。

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学校法人本部で中長期的財政予測を行い、理事会にて法人ならびに各校の財政基盤の安定を確認している。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学校法人ならびに各学校の年度事業計画・予算により、妥当な収支計画のもと、予算執行、事業遂行、会計処理を法人・各学校の双方で隨時確認している。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 財務管理に関するチェックを隨時行い、定期的な法人本部からの会計管理、外部監査、理事会での審議を行っている。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令等を遵守した適正な学校運営を図り、第三者評価において認められている。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂への対応について確認を行う。

今後の方向性、方策など

養成施設指定規則改訂に伴い、カリキュラムや臨床実習に関する対応をすすめて、適正な教育課程の構築を図る。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

i-pad 導入などにより ICT 教育が推進されているが、併せてリテラシー教育も行われ、個人情報保護や守秘義務が守られている点が評価できる。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 関係法令、理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に準じて自己点検を行い、学校評価、第三者評価において確認して適正な運営に努めている。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 個人情報保護規程に則り、情報は電磁的管理のもとで適正に運用を行っており、情報の漏洩は発生していない。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

施設の提供、人材の派遣、ボランティア協力等の社会・地域貢献を行っている。

課題

社会・地域貢献の機会の確保と継続。

今後の方針性、方策など

社会活動の定着と支援体制を検討して行く。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

パラリンピックのサポート、ボランティアなども良い経験となると思われる
。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 臨床実習病院、職能団体などへの会場提供をすすめ、学校イベントでの地域公開講座なども行っている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 地域の障害者イベントに教員が実行委員としての参画、学生を引率してのボランティア参加を奨励している。その他にも地域でのボランティアの協力依頼等を学内掲示により紹介して、推奨している。

3. 学校関係者評価の総括

- 1) 自己評価の内容は適正である。
- 2) 各評価項目の内容が自己評価に適正に記載されている。
- 3) 自己評価の内容は根拠資料から確認できる。
- 4) 自己評価、学校関係者評価が学校運営に反映されている。

学校関係者評価より、学校運営ならびに自己評価を適正と評価する。

4. 学校運営に関する意見

理学療法士・作業療法士の養成施設として、職業実践専門課程認定校として、健全で充実した学校運営、教育活動、人材育成、およびその自己評価は適正と認められる。

評価項目の中で「若干の改善を要する」とされた2点について、①教育活動の項目III-3の授業評価の体制については、授業評価の体制はとられているがその分析と効果的な活用が望まれるものである。②教育環境の項目VI-3の防災体制の整備については、防災訓練での実施内容の充実と多様な災害に対応していく危機管理体制の整備が望まれるものである。以上は、特に次年度の改善策の検討とその実行を期待するものである。

以上